

## 一般社団法人日本地質学会 2023年度第2回理事会議事録

日時：2023年12月9日（土）14:00～16：05【WEB会議形式】

出席役員：出席理事39名，出席監事2名

- ・ 会長1名：岡田 誠
- ・ 副会長2名：杉田律子・星 博幸
- ・ 常務理事1名：中澤 努
- ・ 副常務理事1名：緒方信一
- ・ 執行理事11名：保坂（内尾）優子・内野隆之・尾上哲治・加藤猛士・亀高正男・小宮剛・坂口有人・高嶋礼詩・松田達生・矢部 淳・山口飛鳥
- ・ 理事会議長1名：小松原純子
- ・ 理事会副議長1名：大橋聖和
- ・ 理事21名（議長・副議長を除く）：青矢睦月・芦 寿一郎・天野一男・磯崎行雄・大友幸子・笠間友博・神谷奈々・亀田 純・本郷（川村）紀子・桑野太輔・斎藤 眞・佐々木和彦・沢田 健・下岡和也・高野 修・野田 篤・細矢卓志・保柳康一・三田村宗樹・山路敦・山本啓司
- ・ 監事2名：岩部良子・山本正司

事務局1名：澤木寿子

欠席役員：理事（11名）狩野彰宏，北村有迅，清川昌一，黒柳あずみ，菅沼悠介，辻森 樹，西弘嗣，堀 利栄，松田博貴，道林克禎，矢島道子

大橋聖和副議長が，前半の議事を担当した。

- ・ 審議開始に際し，本日の書記として佐々木和彦理事，斎藤 眞理事を指名した。
- ・ 成立要件：理事総数50名の過半数25名 本日の出席者39名で本理事会は成立。
- ・ 議決：出席者の過半数20名

### 報告事項

#### 1. 執行理事会報告

中澤常務理事より，本年9月以降の執行理事会議事録に基づいて説明が行われた（第19回国際熱年代会議の共催，巡検案内書ワーキンググループの設置，干渉色図表・偏光顕微鏡による鉱物鑑定表の下敷きの増刷，地質災害委員会と関東支部との共催による「関東地震100年関連行事」，JpGUでの地質学会共催セッション）。

#### 2. 理事，委員会，研究委員会報告

##### 1) 総務委員会（亀高理事）

- ・ 会員動静（2023年11月末の会員数）と2023年度末での退会予定者，除籍予定者についての報告があった。
- ・ 逝去会員（6名）の報告があり，黙祷を行った。
- ・ 岡田会長より過去数年の会員数の変化がグラフをもとに説明された。総会員数は確実に減少しているが，特に若手会員の増減は，コロナ時期を経た今後注目する必要があることの説明があった。

- ・ オンライン選挙システムにおいて不具合があれば事務局に連絡して欲しい旨の依頼があった。
- 2) 行事委員会 (山口理事, 高嶋理事)
    - ・ 学術大会: 高嶋理事より, 2023 京都大会の結果についての概説があった。続いて 2024 年山形大会の日程 (2024 年 9 月 8 日~10 日), 会場案などについて説明があり, 2025 年は熊本大会となることの報告があった。
    - ・ ショートコース: 山口理事より第 9 回 (10 月 22 日) の実施報告があり, 今後は 2024 年 2 月, 4 月, 6 月頃, 10 月頃に開催する予定であるとの説明があった。
    - ・ 学生優秀発表賞: 山口理事より, 京都大会における学生優秀発表賞の採点・評価基準の説明があった。今年の反省を踏まえ, 採点方法の一部見直しが検討されており, 変更試案のたたき台が資料で提示された。また, 受賞者の大学で本件の紹介があった例があり, 地質学会のプレゼンス向上となるとの報告があった。
  - 3) 地質学雑誌編集委員会 (小宮理事)

地質学雑誌の投稿, 掲載状況が報告された。投稿数は昨年よりやや少ないものの, 公開論文は昨年より 150 ページほど増加する見込み。現状大きな課題はないとの説明であった。
  - 4) Island Arc 編集委員会 (辻森理事)

代理として小宮理事より, 編集状況とインパクトファクターが 2022 年度は 1.5 であるとの報告があり, 今後特集号の企画を期待しているとの説明があった。
  - 5) 地質技術者教育委員会 (坂口理事)
    - ・ 地球・資源分野 JABEE 委員会: 同委員会への地質学会からの役員の推薦は全員留任する申請を行うとの報告があった。
    - ・ 地質系業界説明会: 昨年よりも盛況であり, 本企画を契機に賛助会員が 3 社増加した。今後課題を整理して山形大会に臨むとの説明があった。
    - ・ 地質系若手人材動向調査: 32 大学から回答があり, これから動向分析と報告書の作成を行うとの報告があった。
  - 6) 若手育成事業検討 WG (内野理事)

2024 年度奨励金について 1 月より新たな募集を開始したいので, 審議事項とするとの説明があった。
  - 7) 各賞選考委員会 (三田村理事)

2024 年度学会各賞の応募状況 (12 月 1 日締切) の報告があった。内訳は以下のとおりである。功績賞 1 件, 都城秋穂賞 2 件, H.E. ナウマン賞 1 件, 小澤儀明賞・柵山雅則賞 2 件, 論文賞 3 件, 小藤文次郎賞 4 件, 地質学雑誌特別賞 2 件, 研究奨励賞 6 件, フィールドワーク賞 1 件, 学会表彰 1 件。推薦数 23 件。学会賞の推薦はなし。
  - 8) 選挙管理委員会 (委員長: 金澤直人会員)

委員長代理として中澤常務理事より, 2024 年度代議員選挙は全国区, 地方支部区とも全員無投票当選であったとの報告があり, 会長・副会長の意向調査は WEB 投票にて実施するとの説明があった。
  - 9) 若手活動運営委員会 (神谷理事, 桑野理事)
    - ・ 学術大会での学生・若手のための交流会: 神谷理事より, 京都大会における実績が報告された。大変盛況であった。山形大会でも前夜に交流会の開催を予定しており, LOC と調整中と

の説明があった。

- ・ 地質業界オンライン交流会：桑野理事より、2024年2月に開催するとの報告があった。その際、企業関係者だけではなく公務員、学芸員（ジオパーク含む）なども加えたいとの説明があった。

10分間の休憩をはさみ、以後は小松原純子議長が議事を担当した。

#### 審議事項

1. 2024年度総会の日程について（中澤常務理事）  
2024年度の定時総会を2024年6月8日（土）に開催したいとの提案があり、審議の上承認された。
2. 2023年度事業実績概要（案）について（岡田会長）  
資料に基づき、2023年度の現段階における事業実績について、「学術大会」「学術研究活動」「出版活動」「地質災害対応」「広報・普及活動」「社会貢献」「地学教育」「国際連携」「会員サービス・学会運営」の観点から説明があり、審議の上承認された。  
なお、中澤常務理事より、2023年度末までの事業実績を加え、2024年4月13日開催の理事会で審議する予定であるとの補足説明があった。
3. 2024年度事業計画骨子（案）について（岡田会長）  
資料に基づき、2024年度の現段階における事業計画骨子について、「学術大会」「学術研究活動」「出版活動」「地質災害対応」「広報・普及活動」「社会貢献」「地学教育」「国際連携」「会員サービス・学会運営」の観点から説明があり、審議の上承認された。  
なお、中澤常務理事より、2024年4月13日開催の理事会で2024年度事業計画を審議する予定であるとの補足説明があった。
4. 研究奨励金規則一部改正について（内野理事）  
資料に基づき、やむを得ない事由で研究を中断せざるを得ないときには、執行理事会に延長願いを提出し承認を受けることで、研究奨励金の使用期間を最大2年間延長することができるようにすることを、研究奨励規則第10条として追加する規則改正の提案があり、審議の上承認された。
5. 2024年度名誉会員推薦委員会委員の選出について（星副会長）  
資料に基づき、2024年度名誉会員推薦委員会委員として、執行理事会より階層別代表委員4名を選出したとの説明があった。続いて、理事会代表委員1名の推薦があった。上記2件について審議の上いずれも承認された。
6. 名誉会員推薦申し合わせ事項の改正について（星副会長）  
資料に基づき、2013年5月に理事会が制定した「日本地質学会名誉会員の制度のあり方と選考プロセスに関する申し合わせ」のうち、推薦プール制の削除と再推薦を妨げないことの追記、「名誉会員の資格」の項目名を「名誉会員の推薦」と修正し、内容も整理、修正する提案があった。これらは、昨年 の 名誉会員推薦において課題として抽出され同委員会での検討を経て、2023年6月の理事会で概要説明がなされたものである。また申し合わせ事項の名称

を、簡潔に「日本地質学会名誉会員の選考に関する申し合わせ」と変更することも併せて提案された。審議の上いずれも承認された。

7. 各種委員会の委員追加・委員再任について（中澤常務理事）

資料に基づき、地質学雑誌編集委員会に文化地質分野の委員として大友幸子会員（山形大学）を追加することとIsland Arc編集委員会の編集委員長として狩野彰宏会員（東京大学）・辻森 樹会員（東北大学）を再任することの提案がそれぞれあった。審議の上いずれも承認された。

8. 外部監事候補者の推薦について（中澤常務理事）

資料に基づき、選挙規則第5条に定める外部監事の候補者について、現監事の山本正司氏（司法書士山本正司事務所）を再度推薦することが提案され、審議の上承認された。

### 監事報告

（岩部監事）2023年度は学会として様々な改革を行っており、若手会員の増加などその成果は今後明らかになる。成果のチェックを行ってさらに積極的な改革を進めてほしい。

（山本監事）2023年度の京都大会では、対面でのポスターセッションや懇親会開催など、感染症蔓延以前の内容に戻ったことは喜ばしいことである。2024年度の山形大会の成功と盛り上げを期待している。

以上、この議事録が正確であることを証するため、議長及び出席監事・理事は次に記名・捺印する。

2023年12月22日

理事：議長 小松原純子

理事：副議長 大橋聖和

代表理事：会長 岡田 誠

理事：副会長 杉田律子

理事：副会長 星 博幸

監事：山本正司

監事：岩部良子

理事：出席理事名（省略）